



勢いよく燃え上がる上村区のどんど焼き

燃え上がる炎に願いを込めて 小正月に町内各地で「どんど焼き」

新年の恒例行事「どんど焼き」が内子町内の各地域で行われ、1年の無病息災を願いました。

上村区のどんど焼きは1月9日、五十崎風博物館前の河原で開かれました。餅つきをやめるなど規模は縮小しましたが、約30人が参加。4人ほどもある高いどんど焼きに年男・年女が火入れし、コロナの収束も一緒に願っていました。



購入者にも生産者にも感謝の気持ちを込めて――

おにぎりを食べて田んぼを守ろう 小田の若者たちが「おにぎり販売会」

小さな田んぼプロジェクトのメンバーによる「おにぎり販売会」が1月9日、道の駅小田の郷せせらぎで行われました。同プロジェクトは小田の棚田の風景を守るため、小田米のおいしさを広げる取り組み。焼きおにぎりなど約200個を完売しました。全種類食べたという松井志緒莉さんは「どれもおいしかった。地元の良さに気付くすてきな取り組みなので応援したい」と顔をほころばせました。



瀧野さんに鳥の特徴などを聞きながらの観察会

双眼鏡の向こうに広がる鳥の世界 身近な自然から学ぶ「野鳥観察会」

野鳥を見て自然を学ぶ「野鳥観察会」（大きな榎の木の下で他主催）が1月15日、五十崎自治センター周辺で行われました。環境マイスターの瀧野隆志さんが講師。カルガモやダイサギを見つけると子どもたちに伝え、一緒に双眼鏡などで観察していました。瀧野さんは「生きている野鳥の姿から、ふるさとの自然を守ることの大切さを感じ取ってほしい」と思いを語りました。



特選を受賞した1月号（組み写真）と12月号

県市町広報コンクールで2部門特選 『広報うちこ』が10年連続で全国へ――

愛媛県市町広報コンクールが1月20日に開かれ、『広報うちこ』が広報紙町部と組み写真の部で特選を受賞しました。講評では「表紙から引き込まれた」「『いま住んでいる人の幸せが一番』など、胸に響く言葉がちりばめられている」と高い評価を受けました。受賞はいつもすてきな笑顔や頑張る姿を見せてくれる皆さん、読んで応援してくれる皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

もしもの時に備えて連携を確認 住民と消防団員らが合同の防災訓練

内子地域を対象とした「内子町防災訓練」が12月5日、内子運動公園総合グラウンドで行われました。2年に1度、旧町ごとに行う大規模訓練で、今年は内子地域の消防団や自主防災組織、内子消防署など約180人が参加しました。応急手当や搬送訓練のほか、大地震を想定した救助訓練などを行いました。参加者は「訓練で学んだことを有事の際の迅速な活動に生かしたい」と話しました。



建物の倒壊を想定し、がれき救助の訓練をする消防団員

正月の定番イベントを目指して 「新春リアルすごろく大会」を初開催

初めての企画「新春リアルすごろく大会」が1月3日、五十崎風博物館で開かれました。正月の家族の楽しいひとときを、風博物館でも過ごしてほしいと五十崎自治センターが主催。サイコロの目の数だけ進みながら、風に関連するカードを集めて点数を競う内容で、大人も子どもも楽しそうに遊んでいました。家族で参加した尾花慎太郎さんは「クオリティが高く童心に返って楽しめた」と笑顔でした。



風博物館が巨大すごろく会場に

野球部のお兄さんたちと一緒に遊ぼう 児童クラブの子どもたちが野球で交流

スポーツに親しむ機会を増やそうと「野球体験交流」（内子児童館主催）が1月6日、内子中学校で行われました。同校と五十崎中学校の野球部員が、内子児童クラブの子どもたちにボールの投げ方や打ち方を教えて交流しました。野球部監督の上田清治さんは「野球をする子どもが減っている。楽しさを知って野球人口が増えたら」と期待を寄せていました。



野球初体験の子どもたちに優しく教える中学生

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ見つけたよ 正月恒例の「春の七草探し」

正月の伝統文化を伝える「春の七草探し」（内子自治センター他主催）が1月8日、内子児童館で開かれ、地域住民や子どもたち36人が参加しました。子どもたちは七草を構成する野草を学んだ後、沖田の田んぼで七草探しに挑戦。見つけるたびにうれしそうに声をあげていました。児童館厚生員の森美佳さんは「昨年は中止したので、新年からみんなの笑顔が見られてよかった」と喜びました。



袋がいっぱいになるくらい七草を集める子どもたち